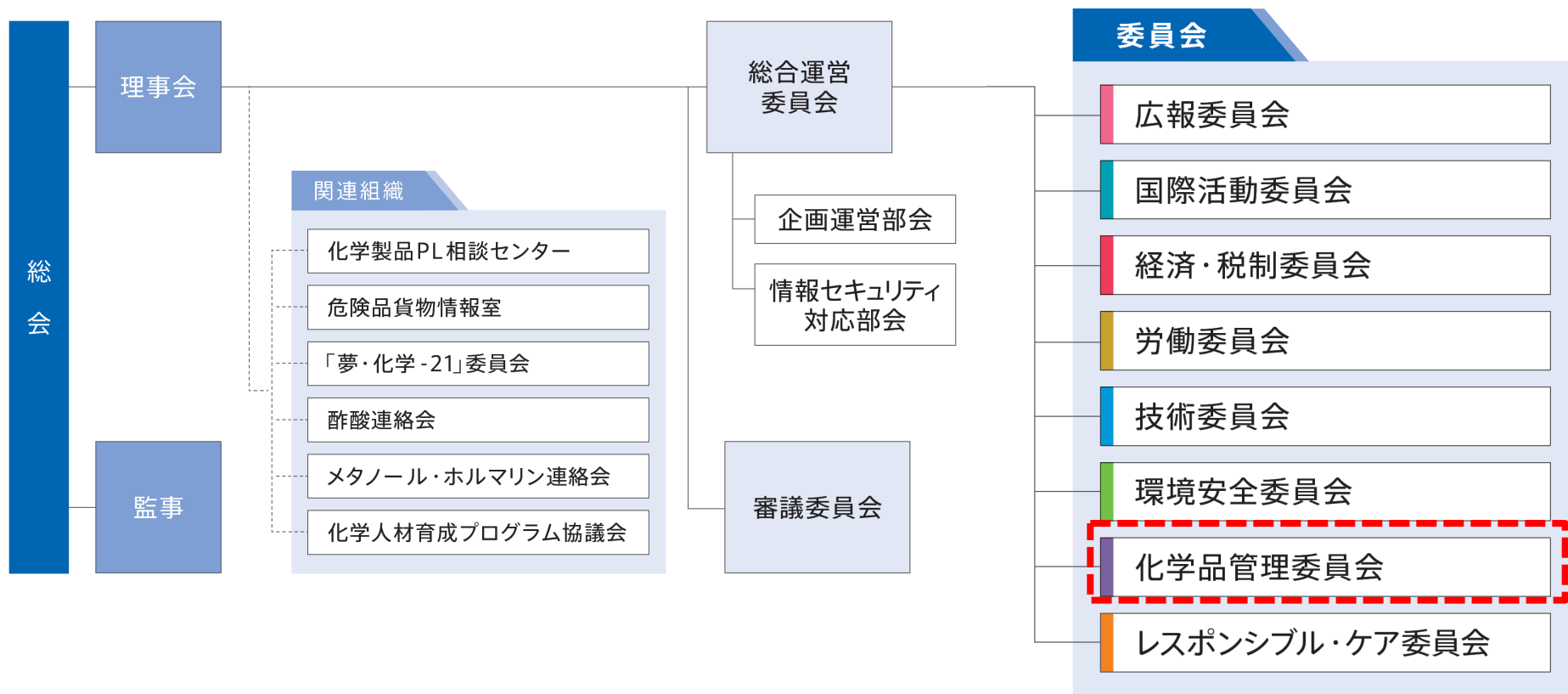


「化学品管理に関する日化協の活動」

2023年2月1日

(一社) 日本化学工業協会

組織図



化学品管理を自主管理活動、規制対応についてはリスクに基づく管理という観点を踏まえて、会員企業の事業を支援

◆ 国内外化学品規制への適切な対応

- 国内外規制動向に関して詳細な情報収集と解析を行い、会員へのタイムリーな情報発信と会員意見の収集を実施
- 実効性のある合理的な法規制に向けた意見具申を実施

◆ 会員への支援

- 化学品管理ネットなどを用いた化学品管理情報の伝達
- 人材育成を踏まえた各種セミナー等の実施（ケミカルリスクフォーラムなど）
- 化学品管理に関する課題への科学的対応として、長期自主研究（LRI）による研究活動の支援

◆ 産業界の自主的取組みの推進

- リスクに基づく化学物質管理を促進する観点から、ICCA（国際化学工業協会協議会）の取組みであるGPS（グローバル化学品戦略）に基づき、化学物質の安全性要約書作成の普及・推進に向けた活動を実施（リスク評価支援ポータルサイト「JCIA BIGDr」の活用促進、混合物リスク評価法の普及、等）
- ASEANを中心に海外での事業展開ニーズに適應した化学品管理に関連したキャパシティビルディング支援

(2023年2月1日付)

国内外化学品規制への的確な対応

国内法WG

海外法WG

- 地域・分野に分け、活動（規制動向に関する情報収集と解析）
- 実効性のある合理的な法規制に向けた意見具申
- 規制への的確な対応支援

人材育成・能力開発支援

- 活動例
- ケミカルリスクフォーラム
 - リスクアセスメントセミナー
 - アジア地域へのキャパシティビルディング活動

リスク評価・情報伝達支援

- 活動例
- サプライチェーン・コミュニケーション
 - 「GPS/JIPS安全性要約書」の推進
 - JCIA BIGDrの開発・公開

技術開発支援

- 化学物質の安全性研究の支援（LRI活動）

WG: Working Group
 GPS: Global Product Strategy
 JIPS: Japan Initiative Product Stewardship
 LRI: Long-range Research Initiative

□ ケミカルリスクフォーラム

<https://chemrisk.org/contents/code/crf>

化学物質のリスク評価ができる実務担当者を養成するため、2002年に「ケミカルリスク研究会」を発足、2008年からは「ケミカルリスクフォーラム」と改称して、リスク評価のための広範な知識や技術の習得を支援しています。

□ リスクアセスメントセミナー

2022年度は改正安衛法で義務付けられた化学物質の作業員リスクアセスメントに対応した実践的なリスクアセスメント手法をご理解いただくためセミナーを開催しました。

□ アジア地域へのキャパシティビルディング活動

国際化学工業協会協議会（ICCA）等の取組みとして、ASEAN各国へ化学物質のリスク管理やGHS導入支援を行っています。



ケミカルリスクフォーラム
Chemical Risk Forum

ログインID
パスワード
ログイン

パスワードをお忘れの方

検索

商品はありません

受講料合計：0円
お申込

【What's New !】

開催日	内容
2022.12.23 (金)	<p>2022年度8回研修会</p> <p>13:15 - 14:45 「東南アジア法規制動向」 一般社団法人日本化学工業協会 化学品管理部 西村 杉雄</p> <p>15:00 - 16:30 「韓国・台湾・中国法規制動向」 一般社団法人日本化学工業協会 化学品管理部 万代 好孝</p>

2022年度リスクアセスメントセミナー（初級編）

（合同開催：ケミカルリスクフォーラム第3回研修会）

プログラム

時間割	プログラム	内容
13:15 ~14:45	講義1	ラベル、SDS、GHSと関連法令
(休憩)		
15:00 ~16:30	講義2	作業安全(暴露評価、リスク評価法、評価ツール)

2022年度リスクアセスメントセミナー（実践編）

（合同開催：ケミカルリスクフォーラム第5回研修会）

プログラム

時間割	プログラム	内容
13:15 ~14:45	講義1	簡易測定法(検知管、リアルタイムモニター)
(休憩)		
15:00 ~16:30	講義2	労働衛生関係法令の改正と対応

JCIA BIGDrについて <https://www.jcia-bigdr.jp/jcia-bigdr/top>

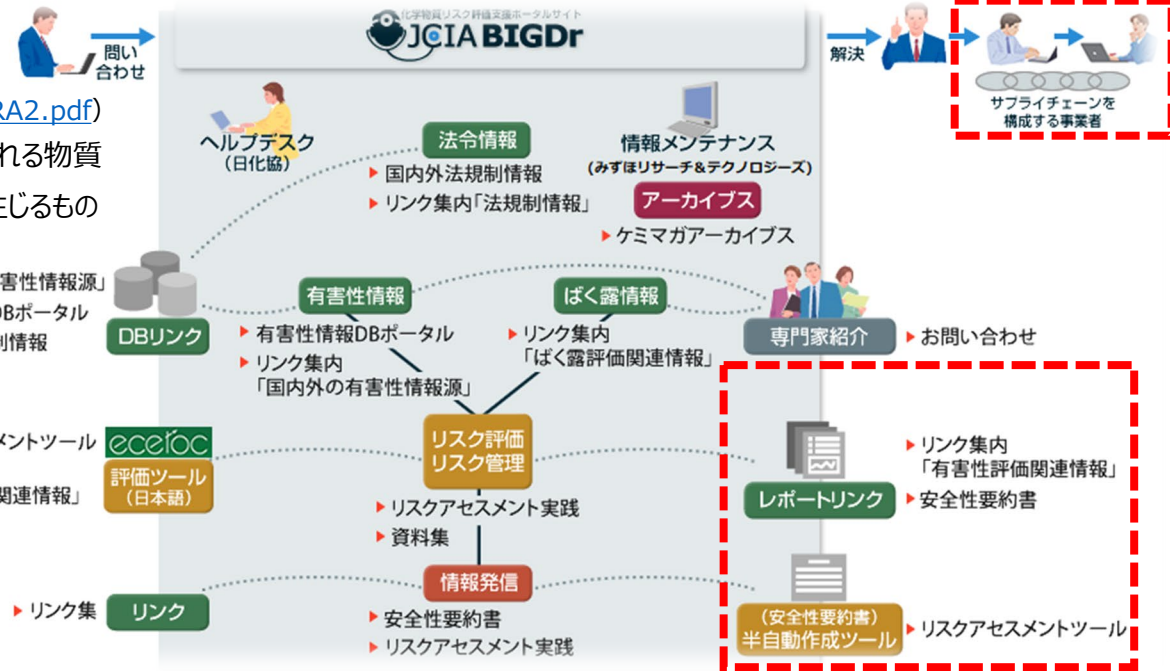
調査、リスク評価、安全性要約書*作成の一連の作業をワンストップで実施できる化学物質リスク評価支援ポータルサイトです。

* 抜粋 (<https://www.nikkakyo.org/sites/default/files/RA2.pdf>)

1トン/年以上が全世界で（商業的に）販売または輸送される物質
1トン/年未満だが、ヒト健康や環境に対し重大な脅威を生じるもの

- ▶ リンク集内「国内外の有害性情報源」
- ▶ 有害性情報DBポータル
- ▶ 国内外法規制情報

- ▶ リスクアセスメントツール
- ▶ リンク集内「ばく露評価関連情報」



情報伝達

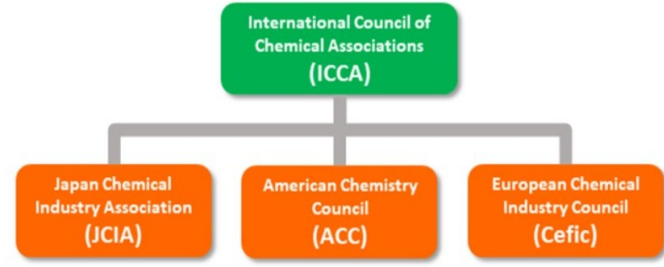
化学品のリスクに関する情報を安全性要約書（GSS）で一般公開し、その情報に基づいた管理によりサプライチェーン全体で化学品のリスクを最小化するための取り組みを進めております（WSSD2020年目標）

労働安全衛生法特設ページ

物質名称	CAS番号	企業名	製品名
安全性要約書 (GSS) GPS/JIPSコンソーシアムと 安全性要約書のドラフト GPS/JIPS		ケミマガアーカイブ	
1,2,3-Propanetriol, triacetate	102-76-1	Daicel Corporation (株式会社ダイセル)	(1,2,3-Propanetriol, triacetate)
1,2,4-Benzenetricarboxylic acid, decyl octyl ester	67989-23-5	Kao Corporation (花王株式会社)	TRIMEX N-DBNB [English] トリメックス N-DBNB
1,2-Benzenediol, 4-((1,1-dimethylethyl)-	98-29-3	DIC Corporation (DIC株式会社)	DIC-IBC DIC-IBC-HS DIC-IBC-W
1,2-Butanediol	584-03-2	Mitsubishi Chemical Corporation (三菱ケミカル株式会社)	C1,2-ブタンジオール
1,2-Ethanediamine	107-15-3	TOSOH CORPORATION (東ソー株式会社)	エチレンジアミン
1,2-Ethanediamine, N1,N2-bis(2-aminoethyl)-	112-24-3	TOSOH CORPORATION (東ソー株式会社)	トリエチレンジアミン

https://www.jcia-bigdr.jp/jcia-bigdr/material/icca_material_list

- 化学物質が人の健康や環境に及ぼす影響に関する研究を長期的に支援する国際的な取組み
- 1999年当時、環境ホルモン（内分泌かく乱物質）問題が契機となり、ICCA（国際化学工業協会協議会）がグローバルな自主活動としてスタートした研究助成事業
- 現在は日米欧三極の化学工業会（日化協、ACC（米国化学工業協会）、Cefic（欧州化学品工業連盟））の協力の下、“社会のニーズに応える”という観点で安心・安全につながる研究の支援、課題解決に取り組んでいる。



<https://icca-chem.org/focus/chemicals-management/long-range-research-initiative/>

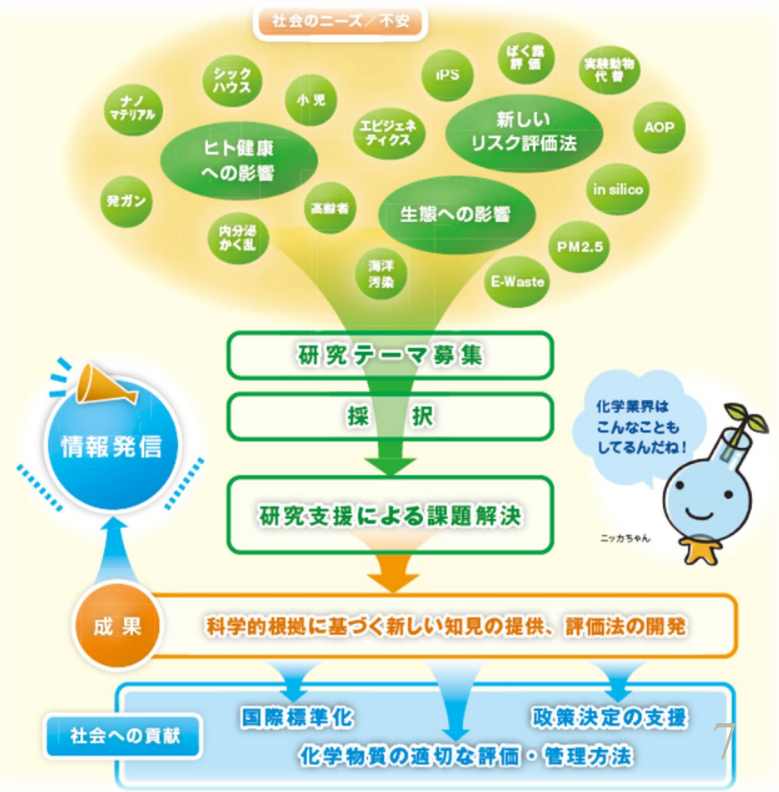
2022年度日化協の取り組み

<https://www.j-lri.org/index.html>

2023年度募集研究テーマ（2022.11.07～2022.12.14）

- | | |
|---------------------------------|--|
| (1) 動物実験代替法の開発 | |
| (2) 新規な課題を解決するための試験法の開発 | |
| (3) ヒトへのばく露に関する研究 | |
| (4) 環境へのばく露に関する研究 | |
| (5) 新しい特性を持つ化学物質の安全性評価 | |
| (6) 化学物質法規制における安全性評価を推進する評価法の開発 | |

https://www.j-lri.org/003-1_1.html





動物実験代替法へのシフト

EU CSSで取り上げられるなど化学品規制への活用に向けた国際的潮流



日化協ではLRI活動を通じ、研究開発を支援



国際ワークショップを日本開催（ハイブリッド）

SCIENCE-POLICY INTERFACE

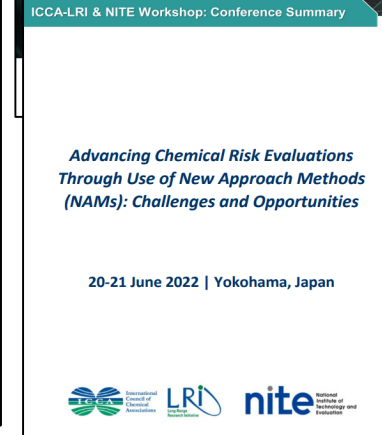
The Commission will:

- establish and update a **research and innovation agenda for chemicals**, driven by a EU-level Coordination Group, that would also promote the regulatory uptake of research findings;
- foster multidisciplinary research and digital innovations for **advanced tools, methods and models, and data analysis capacities**¹⁰² to also move away from animal testing;
- provide financial support for **EU-wide human and environmental (bio)monitoring capacities**¹⁰³ as complementary to existing monitoring initiatives;
- develop a **research and innovation agenda for chemicals** and **advanced tools, methods and models, and data analysis capacities** to also move away from animal testing;

INTERNATIONAL LEADERSHIP

The EU will:

- step up its **international advocacy** to meet the 2030 Agenda's goals and targets for the sound management of chemicals, in particular by having a leading role and promoting the implementation of **existing international instruments**¹¹⁶ as well as EU standards globally;
- strive for the adoption of **global strategic objectives and targets** for the sound management of chemicals and waste beyond 2020 to reflect life cycle approaches for chemicals, in line with the post-2020 global biodiversity targets;
- promote, together with industry, the implementation of the Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN GHS) as the means for **identifying chemical hazards** and communicating them to operators, workers and consumers;
- propose to introduce, adapt or clarify **criteria/hazard classes** in UN GHS¹¹⁷;
- promote the development of **common standards and innovative risk assessment tools** internationally, notably with the OECD, and promote their use under international frameworks, inter alia to shift further away from animal testing.



報告書を公開

https://www.j-lri.org/files/002-5_1/2022_ICCA-LRI-Workshop.pdf

人材育成の重要性

個人的な問題意識

- バランスの取れた対応の重要性 (右図)
- 世の中のトレンドに対応しつつ、必要な専門知識を有し、**次世代の道標となる専門家の育成**⇒次世代への伝承



化学品規制・自主管理 → **専門家の育成** → 次世代の育成

例えば・・・

化学品規制・技術開発のトレンド	人材育成
<ul style="list-style-type: none"> • UNEA5.2決議“Sound Management on Chemicals and Waste”に基づく国際議論 • ポストSAICMへの対応 • 規制対応・自主管理 • <i>is silico, in vitro</i>技術の活用 (毒性予測・評価) 	<ul style="list-style-type: none"> • 正しく規制対応できる専門知識 • 正しくリスク管理できる専門知識 (例：有害性、保護具) • 正しく毒性評価できる知識*

* について (育成ポイントの一例)

